

1. 摂田屋 自由散策コースのご提案

(1) ガイドコース案

Aコース (北側の散策ルートの見どころ)

摂田屋町のブランディング～「発酵の宝」の発掘ガイド

Bコース (南側の散策ルートの見どころ)

摂田屋町のブランディング～「歴史の宝」の発掘ガイド

Cコース (鰻絵蔵、米蔵の見どころ)

摂田屋町のブランディング～ミライ発酵本舗、町おこしの会とのコラボ

そのほか、

Dコース (宮内駅 ～ 宮内商店街の見どころ)

～ 雁木通り、戦災の痕跡、秋山ポスター美術館など

Eコース (吉澤仁太郎の定明町、太田川と福島江、前島を望むコース)

～ 定明・八幡神社、定明寺・宝篋印塔、太田川・福島江サイフォンなど

基本的には、A、Bコースが、機那サフラン酒・米蔵を発着地点とし、30分から45分で戻ってくるコースで、Cコースは鰻絵蔵の見学を中心とし、A、Bコースの前半と共通である。

D、Eコースは、オプションとして用意したものです。

太田川の土手を通るBコース、Eコースについては風雨などの天候、土手の草丈の成長などにより、悪路になりますので、ご注意ください。

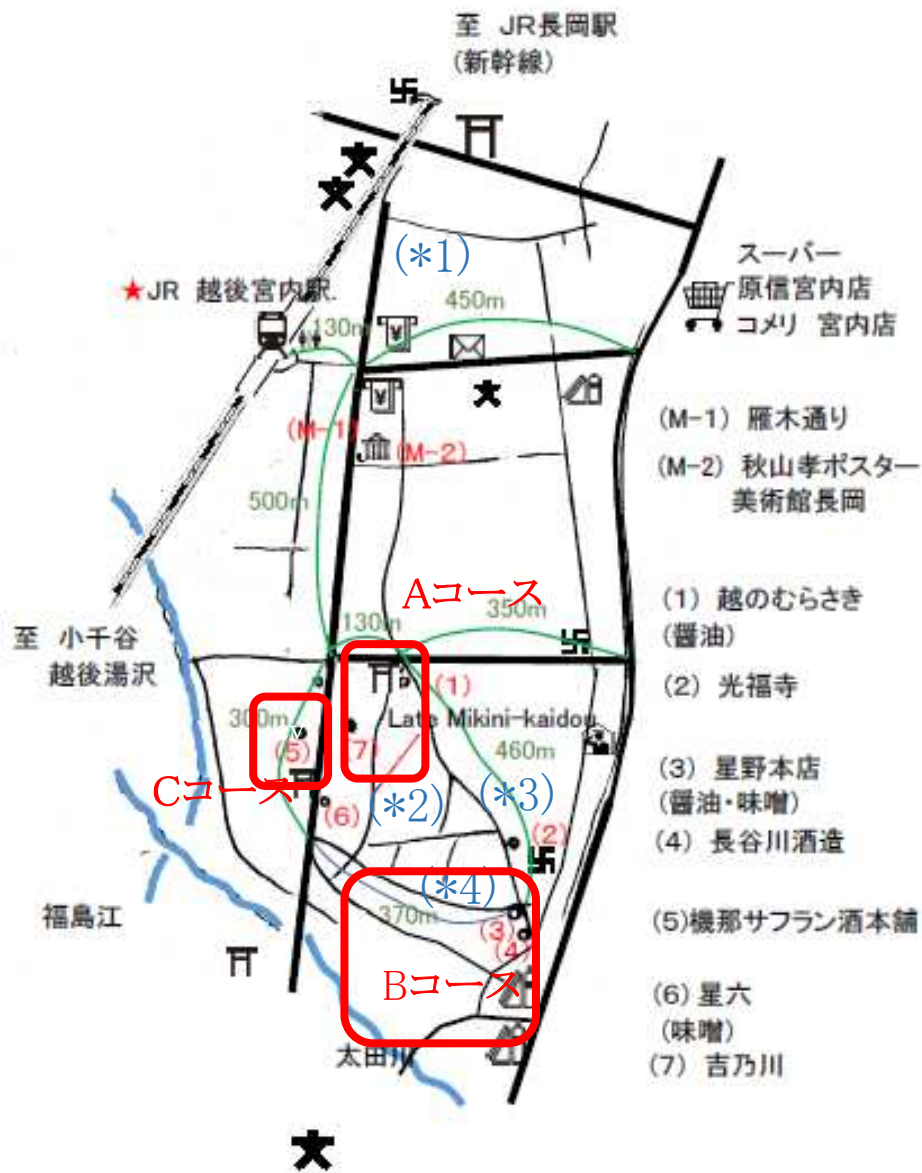
後半では、見どころの詳細を、ご説明しています。

いつか、ごらんいただけたら幸いです。

図 散策コース案 のマップ図

- (1) Aコース (北側の散策ルートの見どころ)
- (2) Bコース (南側の散策ルートの見どころ)
- (3) Cコース (鰻絵蔵、米蔵の見どころ)

- 昔の国道17号沿い(*1)
(現・県道三和滝谷線)
- 昔の三国街道 (*2)
- 昔の行者の道 (*3)
- 十兵衛小路 (*4)



(2) 出発、戻りの時間割り (スケジュール)

	Aコース	Bコース	Cコース
09:30	公開ガイド オープン		
09:45	鑊絵蔵からスタート		鑊絵蔵 (*2)
10:00	醸蔵北側の小道へ出発		米蔵 ガイド開始
10:40	米蔵に戻り (*1)		
10:45		鑊絵蔵ガイド開始	鑊絵蔵ガイド開始
11:00		太田川方向へ出発	米蔵 ガイド開始
11:40		米蔵に戻り	
11:45	鑊絵蔵		鑊絵蔵ガイド開始
12:00	醸蔵北側の小道へ出発		米蔵 ガイド開始
12:40	米蔵に戻り		
12:45		鑊絵蔵ガイド開始	鑊絵蔵ガイド開始
13:00		太田川方向へ出発	米蔵 ガイド開始
13:40		米蔵に戻り	
13:45	鑊絵蔵ガイド開始		鑊絵蔵ガイド開始
14:00	醸蔵北側の小道へ出発		米蔵 ガイド開始
14:40	米蔵に戻り		
14:45		鑊絵蔵ガイド開始	鑊絵蔵ガイド開始
15:00		太田川へ出発 (30分短縮版)	米蔵 ガイド開始
15:30		米蔵に戻り	
	公開ガイド 終了時刻		

(*1) A,B コースとも出発から 30から40分で戻り。

(*2) Cコースの鑊絵蔵見学はA, Bコースと共通。

2. 各コースの見どころの説明、時間モデル

(1) Aコース（北側の散策ルートの見どころ）

本来ならば、一時間かけて、ゆっくり回られると、いろいろご覧になれると思います

0. サフラン酒・米蔵脇の摂田屋駐車場からスタート
1. 吉乃川・醸蔵の北側の露地へ
2. 吉乃川・中越酵母工業 戦後の酵母事業、戦後のパン酵母製造への参入と現状。 全国の酒蔵の新酒酵母の受託開発。
3. 旧三国街道を散策 黒い塀は、醤油酵母菌の棲みついた色とのこと。醤油酵母菌の寿命は一カ月ほどですので、開業以来、何代でしょうか。 おだやかな日には、最初にしょうゆ、そして、しばらく進むと日本酒の香。 道幅は、当時のまま。狭いですが、市道です。 ガイドでは、摂田屋の醸造業集積の理由も、ご説明したいところです。
4. 越のむらさき 交差点で 前の南北の道路、室町時代以前からの道で、修験道の行者も通った道。 南側は村松、山古志に通じています。 北側は、江戸時代には旧三国街道で、長岡町に至る道。 江戸時代に、ここで旧三国街道ができ、三差路になったと思われます。 ここ長岡の南部は、2004年10月の中越地震で震度6強。 震源は、一番端の山塊後方の長岡市川口で震度7。ここから15キロほど。 この地震で、ここから望める東山全体が70cm隆起したと言われています。 山古志という地名、地震で全村避難の報道をご覧になった方もおられると思いますが、一番端の山塊の付近。ここから5キロから15キロの範囲です。 当時連日報道の、新幹線脱線停止現場は、ここから3キロほど南。 全高架橋維持・無事脱線停止は、当時のJR東日本の、阪神大震災以降の地震災害の経験をもとに、10年近くの愚直とも云える保守活動が功を奏したことをお話したいところです。

5. 越のむらさき

1831(天保2)年、創業のしょうゆの会社。吉乃川・川上家から分家。
越のむらさきの煉瓦煙突は、中越地震で、上部の1/3が折損した。
主屋は、明治10年竣工の、登録有形文化財。

6. 辻地蔵

古くは集落の入口や山道の分岐点に安置されたものが多く、この辻地蔵も、長岡町にいた女の子が迷子で行方不明になってしまった両親が、その子の無事を祈って、三国街道と、その脇道の山道の分岐点のこの地に建てたと言われています。石の台座に、右は江戸、左は山道の文字が読めます。越のむらさきさんは、お地蔵さん建立の25年後に創業ですから、建立当時のお地蔵さんは、村の入口の辻にポツンとあったのではと思います。

7. 竹駒稻荷

明治の中頃、宮城県岩沼の竹駒稻荷から勧請されました。
人間生活の基礎である衣食住を守護するとされ、五穀豊穰、地域安泰の神様とされています。
岩沼の竹駒稻荷の正月初詣で客は、新潟の弥彦神社の人数と同程度と言われているように、東北地方屈指の大きな神社です。
神様の御使いのキツネには、中越地震で破損した修理痕が残っています。小さなキツネも見えます。
サフラン酒の吉澤家の菩提寺は鷲の巣の定正院ですが、そちらに、このキツネと同じ作者の手になるとされるキツネが、石塔の前に守護として鎮座しています。

8. 吉乃川・醸蔵、機那サフラン酒・米蔵 戻り

(2) Bコース (南側の散策ルートの見どころ)

本来ならば、一時間かけて、ゆっくり回られると、いろいろご覧になれると思います。

0. サフラン酒・米蔵脇の撰田屋駐車場からスタート	
1. サフラン酒の西側ルート	
2. 星六	<p>明治30年星野本店から分家の味噌屋さんで、3～5年ねかせる、手作りの濃い口の赤味噌。 シャッター、看板にある文字は、中川一政画伯によるの書。マンガ(美味しんぼ)に紹介され有名となる。書を拝見しながら、太田橋へ向かいます。(昔は定明の八幡神社近くに橋) 詳細、省略します。</p>
3. 太田川土手	<p>埃坪川の排水機場、福島江の太田川サイフォン。川上四郎さんの旧制中学時代の油絵の写生ポイント。水鳥やキジのつがい、大きなサギの飛翔も見れるかも知れません。気持ちのいい散歩になると思います。遠くから定明の八幡神社拝観。撰田屋城の位置予測。</p>
4. 長谷川酒造	<p>1842(天保13)年創業、通りに面した煉瓦造りの建物は、大正時代に建てられた糶室。雪紅梅(遠藤実命名)の酒がある。</p>
5. 星野本店	<p>1846(弘化3)年創業。三階蔵の中の、明治初期の扉の文字の説明、土壁構造の展示も、すばらしい物語があります。事務所棟では、大正年間建造の洋風会議室。事務所内では、醤油・味噌と料理レシピの説明も、ぜひお楽しみ下さい。この間、醸造の町・撰田屋、中世の長岡の説明をしたいと思います。</p>

- | | |
|-------------------------|---|
| 6. 光福寺 | <p>戊辰の役の旗揚げの場所です。</p> <p>引き金となったアジア情勢。堀氏、牧野氏による長岡の町割り、寺社配置とともにお聞き下さい。</p> <p>歩きながら、西軍メンバ、東軍メンバと、その後の話も。</p> |
| 7. 吉乃川・醸蔵、機那サフラン酒・米蔵 戻り | |

オプション	<p>時間の余力のある方には、鷺巢の定正院様も。</p> <p>その途中の横枕に、もうひとつの酒蔵、お福酒造。</p> <p>お福酒造、吉之川の日本酒醸造業への貢献の話。</p> <p>(軟水の克服、速醸酏、大型タンク、自動製麹など。全国酒蔵の新酒開発への麹製造受託。)</p>
-------	---

- | | |
|--------------|---|
| 1. 吉乃川・醸蔵 | <p>醸蔵 展示物説明、お酒の話と試飲。</p> <p>ゆっくりとお過ごしなされることを、お薦めします。</p> <p>極上吉之川、天下甘露泉の書の説明も。</p> <p>(清水寺・森清範師、大西良慶和上の書です)</p> |
| 2. 機那サフラン酒本舗 | <p>1884(明治17)年、創業。</p> <p>吉澤仁太郎の創業、吉鋺絵蔵と主屋の説明。</p> <p>鋺絵蔵は、ぜひガイドの説明をお聞き下さい。</p> <p>庭園、離れは、じっくり見学されることをお薦めします。</p> <p>南の端の琴平宮も、ご覧ください。</p> |

序に代えて、クイズ

絶対に見逃してほしくない点を、クイズでお示します。

- ① 摂田屋の登録有形文化財の多くが、なぜ100年前あたりの建造物なのでしょう。 (それ以前の建物は少ないのです。)
- ② サフラン酒の建物の壁面にある綺麗な装飾を、鰻絵といいます。蔵の東側、北側の鰻絵は、それぞれテーマを持っているのですが、何か、お気づきでしょうか。また、屋根の上の大きな鬼瓦や屋根の軒下に、龍が何頭か、います。この龍は、何のためか、お気づきでしょうか。
- ③ 日本酒、醤油、味噌と醸造関係が発展しています。なかでも、日本酒は、摂田屋町に二軒、そして近くの横枕町に一軒と集積しています。なんででしょうね。ヒントは近くを流れる太田川の存在です。
- ④ 吉乃川の周りに、極上吉之川ののぼりがはためいています。同社の主力商品のひとつですが、いい文字ですよ。どなたの手になる字か、ご存知でしょうか。
- ⑤ なぜ、長岡に錦鯉養殖の文化が根付いたのでしょうか。おわかりでしょうか。
- ⑥ 摂田屋の周辺には、本当に多様な神社があります。さらに、町なかでは殆ど見かけない、いろんな石塔があります。不思議ですね。なぜでしょうか。

答えとといいますか、答えを探すヒントを、見どころの追加説明のなかに、まとめました。適宜、お読み下さい。

なぜ、大正期に 追加見所

「宮内、摂田屋の多くの施設、なぜ、大正期に」

～オイルシティの力で、長岡が繁栄したことと思っています。

長岡秋山孝ポスター美術館・旧長岡商業銀行宮内支店

吉乃川・醸蔵（旧常蔵）

サフラン酒の主屋の増改築、衣装蔵、鋳絵蔵の建築

星野本店・会議室や三階蔵の増改築

「東山油田」とは、長岡の東から三条にかけての一带の山地に沿って分布する産油地の総称。明治9年当時の油田調査では、ほとんど廃坑に近い状態にあるとされていましたが、明治20年代に入ると、浦瀬から栃尾に抜ける榎峠で手掘りにより1抗が開削されたことを皮切りに、次々と有望な油井が見つかり、石油ブームを迎えました。

東山の有力な鉱業者（小坂松五郎、植栗順平、山田又七等）が、次々に石油会社・組合を起し活躍しました。石油ブームの中心となった長岡市は、まさに「オイルシティ」として成長していきます。

明治20年代半ば石油採掘器具を生産すべく難波鉄工所・須藤鉄工所が設立された他、従来輸入に頼っていた石油採掘・精製機械を自製するために、明治35年には日本石油が新潟鉄工所長岡分工場を設立。39年には宝田石油などが中心となり長岡鉄工所組合を立ち上げました。油田のピークは明治32年～明治38年頃までで、その後は下降線をたどりますが、上記の工場は一般・工作機械の製造に進出していき、現在の工業都市長岡の基となりました。

工作機械は、旋盤、縦、横型フライス盤、エンドミル、中ぐり盤、放電加工機など非常に多岐に渡りますが、ひとつの街で、これら全部の機種を製造しているのは、長岡だけと、言われています。

摂田屋に醸造産業が集積した、3つの理由

1. 良質な水

豊富な信濃川の地下水、東山丘陵を水源とする太田川の扇状地先端に位置。酒は水。江戸から明治にかけては、豊富な信濃川の地下水が大きなメリット。太田川の扇状地先端 = 軟水 であり、発酵が緩慢で不安定であることから、明治以前造りは酒りに不利とされていたが、当地の酒造技術者らの研究により、解決。逆に淡麗辛口のブームと相まって、独自の販路を開拓している。渋海川扇状地先端の朝日山も同様。ちなみに、灘・伏見は100前後の中程度の軟水、広島・新潟は50前後の、かなりの軟水が多いとされている。

表1 水の硬度の分類（国税庁醸造試験所注解¹⁹⁾）

軟水	<3度(53.4 mg/L)	
中等度の軟水	3度 — 6度(107 mg/L)	
軽度の硬水	6度 — 8度(142 mg/L)	
中等度の硬水	8度 — 14度(249 mg/L)	
硬水	14度 — 20度(356 mg/L)	
強度の硬水	>20度	

度数はドイツ硬度を表す（1度=17.8mg/L）。特に、中等度の軟水および軽度の硬水は、広島ではそれぞれ中硬度水、軽度硬水と呼ばれている。この現場で使い慣れた名称で以下記述する。

佐々木健、佐々木慧、広島国際学院大学研究報告(2016)

2. 商売のしやすさ

江戸期、この地は長岡北部の蔵王神社・安禅寺の所領で、上野寛永寺の末寺であることから、長岡藩の支配が及ばず、商売の株取得、税政などの規制が緩かったと思われる。

3. 良好な物流インフラ

陸運の三国街道、水運の太田川～信濃川という物流インフラにより、米や麦の搬入、酒や醤油・味噌の出荷に便利。日本酒は秋～冬にかけて仕込むので、特に12月から初春の新種出荷時期は積雪・融雪による太田川水量の豊富さは、大きなメリットであったと思われる。

太田川～信濃川のルートの下流は、弥彦近くの地藏堂から、西川、または新潟蒲原往来で新潟湊と直結しており、長岡は交通の要衝であり、その中でも、太田川沿いは有利だったと思われる。

撰田屋 サフラン酒本舗 追加見所

初代、二代の吉澤仁太郎の時代背景

2,300坪の屋敷、庭園。

建物の説明、庭の石、灯籠、池

ちょうど100年前に着工、10年後に鍔絵蔵が完成。

初代、二代の吉澤仁太郎の時代背景

鍔絵は九十年間、修理してなく、この鮮やかさ、というところからじっくりとご覧ください。

全国の鍔絵との比較を知ると、興味倍増です

まず正面の玄武、青竜、朱雀、白虎、黄竜に、麒麟、鳳凰

そして北面の、イノシシから順次、十二支ほか、ていねいに見て下さい。

五穀豊穰、子孫繁栄、地域の安泰、などの祈りの現れと思います。

龍は。サフラン酒本舗の屋敷全体に流れている通奏低音のようなものだと思います。

そして龍は。仏法の守護神のみならず、火防など、いろいろな意味でお守りです。

二代目仁太郎の政界進出と田中角栄

撰田屋パンフを入手し、時間があれば、パンフレットにありますような様々なところをご覧ください。本ウェブでもデータをアップロードしています。

撰田屋は、蔵王権現領と長岡藩領がモザイク状に同居。相給地(あいきゅうち)。蔵王権現の別当寺の安禅寺は、上野寛永寺の末寺ということで、税金や公の負担が少なく、新規の商売がしやすく、また水も清く、天然の恩恵もあって、はやくから新規事業の醸造業が集積したと云われています。

(寛永寺は、現在の上野公園全域の境内のほか、最盛期にはその他に大名並みの約一万二千石の寺領を有していました。)

明治に入っても、仕事がしやすい環境だったようで、サフラン酒本舗の創業者も、明治27年に隣村の定明から撰田屋に移ってきました。

明治17(1884) 21才 サフラン製造開始

明治20 全国の酒造屋が淘汰されていった時期

仁太郎が、宮内地区の酒造屋を結集した。

明治27(1894) 31才 定明から撰田屋に移転

明治44(1911) 4月 大看板 棟札 彫刻 金子九郎次

大正2(1913) 金峯神社上棟 棟札に同じ

大正元年 大規模改修

大正5(1916) 1月起工 土蔵建築 請負人 壁 河上伊吉(屋号市助)

大正15 5(1926) 仁太郎 65才。 鍔絵蔵完成

昭和6(1931) 70 才 数えで71才 離れ座敷 棟梁 平沢喜太郎 38才

昭和16(1941) 80 才死去。

生前、二代目として前島の堀井家から養子を迎えました。

吉乃川の漢字 追加説明

今年の漢字

毎年漢字の日の12月12日に、日本漢字能力検定協会主催により一般公募で選ばれたその年の世相を、清水寺の舞台上、清水寺の貫主(かんす)である森清範師が漢字一字を揮毫する「今年の漢字」。「今年の漢字」が清水寺の舞台上で発表される。「極上吉之川」は森清範師の書。「和泉屋」の「天下甘露泉」の命名は、前管主の大西良慶師。

「天下甘露泉」

吉乃川の仕込水は、敷地内の地下深くから湧き出る日本一の大河、信濃川の伏流水です。「天下甘露泉」と呼ばれるその水は、ミネラルを多く含む軟水。飲み飽きしない、さらりとした酒質の吉乃川を醸し出します。ちなみに吉乃川の屋号は「和泉屋」です。

吉乃川 厳選辛口(吉乃川の定番辛口酒)

新潟県産米を100%使用し、麴造りから辛口に徹して造り上げました。どんなお料理にも合わせやすいキレの良い辛口酒で、きれいな口当たりが特徴です。辛口がお好みの方にお送りするワンランク上の定番酒です。

「水」について、水は天下甘露泉と命名された

良質な地下水が豊富で、ここは東山丘陵地からの雪解け水と信濃川の伏流水が地下深くで交わる場所で、不純物や醸造に不適當な成分の少ない非常に優れた水だということ。

続いて「米」について、米は新潟県南部の山あいの地方や近郊の農家で造られたお米で、その大部分が新潟県産酒造好適米の中でも最高の「五百万石」というお米を使っている。

「吟醸 極上吉乃川」は、地元で契約栽培された【五百万石】を100%使用。

精米55%

「吟醸生原酒 極上吉乃川」精米55%

「淡麗で香味のバランスが良く、自然に次の手が出る飲み飽きしない酒」をコンセプトに、新潟県産の「五百万石」を用いて58%まで磨き、軟水「天下甘露泉」で仕込まれています。

特に、「純米大吟醸 極上吉乃川」は、地元で契約栽培された【越淡麗】
を100%使用 精米40% 淡麗辛口
「吟醸生原酒 極上吉乃川」精米55%

清水寺(きよみずでら)は、京都府京都市東山区清水にある寺院。
山号は音羽山。本尊は千手観音。もとは法相宗に属したが、
現在は独立して北法相宗大本山を名乗る。
法相宗(南都六宗の一)系の寺院で、広隆寺、鞍馬寺とともに、
平安京遷都以前からの歴史をもつ、京都では数少ない寺院の1つである。
西国三十三所観音霊場の第16番札所。